

2) エネルギー積分を使う方法

エネルギー積分とは、運動方程式

$$m \frac{d^2x}{dt^2} = -kx$$

を積分する際に、両辺に dx を掛けて長さで積分する方法を指す。その結果（力×長さ=仕事）がエネルギーの次元を持つ事から、エネルギー積分と呼ばれる。両辺に dx を掛けて

$$m \frac{dv}{dt} dx = mv dv = -kx dx \quad (dx/dt=v) \quad (5)$$

積分すると、

$$\frac{mv^2}{2} = m \int v dv = -k \int x dx = -\frac{kx^2}{2} + \text{const.} \quad (6)$$

が得られる。左辺は錘の運動エネルギーを、右辺の第1項はバネの位置エネルギーを表し、左辺に移項すると、全運動エネルギーが時間によらず一定、という**エネルギー保存則**になっている事が分かる。積分定数を $kC^2/2$ と書き換え、 $k/m = \omega_0^2$ と置くと、

$$\left(\frac{dx}{dt}\right)^2 = \frac{k}{m}(C^2 - x^2) = \omega_0^2(C^2 - x^2), \quad \frac{dx}{dt} = \pm \omega_0 \sqrt{C^2 - x^2} \quad (7)$$

と変形できる。最後の式を見ると、右辺は x のみの関数なので、両辺を $\sqrt{C^2 - x^2}$ で割って dt を掛けると変数が両辺に分離され、両辺を積分することが出来る（**変数分離法**）。

$$\int \frac{dx}{\sqrt{C^2 - x^2}} = \pm \omega_0 \int dt = \pm \omega_0 t + \theta_0 \quad (\theta_0 \text{は積分定数}) \quad (8)$$

左辺の積分を進めるために変数変換を行う。

$$x = C \sin \theta$$

と置くと、 $dx = C \cos \theta d\theta$ なので、(8)の左辺は、

$$\int \frac{dx}{\sqrt{C^2 - x^2}} = \int \frac{C \cos \theta d\theta}{\sqrt{C^2 - C^2 \sin^2 \theta}} = \int d\theta = \theta \quad \left(= \sin^{-1} \frac{x}{C} \right) \quad (\text{逆三角関数})$$

と積分でき、位相角 θ に等しいことが分かる。 $t \geq 0$ に対応して $\theta \geq 0$ の領域を選べば

$$\theta = \omega_0 t + \theta_0$$

より、単振動の一般解として

$$x = C \sin(\omega_0 t + \theta_0)$$

が得られる。

$$C \sin(\omega_0 t + \theta_0) = C(\cos \theta_0 \sin \omega_0 t + \sin \theta_0 \cos \omega_0 t)$$

$$= A \sin \omega_0 t + B \cos \omega_0 t, \quad (A = C \cos \theta_0, B = C \sin \theta_0)$$

から、1) で求めた一般解に等しい解が求まる。